

# 同窓会だより

編集発行／岐阜県立本巣松陽高等学校同窓会事務局  
 (〒501-0407 岐阜県本巣市仏生寺859-1・TEL (058) 324-1201 FAX (058) 323-0651)

卒業生総数：  
28,804 人

本巣中学： 2,571人  
 本巣高女： 2,592人  
 高校(本巣校舎)： 23,436人  
 高校(岐阜校舎)： 205人



## その昔、鶴が舞ひし母校

同窓会会长 中島 洋晃

一九二〇（大正九）年に開校

に満九十歳の齢を数えることができました。母校卒業生総数は、二〇一一（平成二十三）年卒業生二三六名を加えて二八、八〇四名となり、世界各地において「質実剛健・克己邁進」の校訓を体してご活躍のことです。

昨年五月三十日に、関西支部総会が大阪市内にて開催されたおり、昭和六年卒業（旧制中学第七期生）の木村喜

義様にお会いすることが出来ました。昨今の話題に百歳年齢の詐称が話題になつておりましたが、木村喜義様が出席されたおりには、満九十九歳であり、

昨年の十二月の誕生日には目出度くも満百歳になられたことあります。

歩兵一六三聯隊名譽会長の肩書きをお持ちのことからもそのお人柄の有り様は類推するに十分であります。木村さんは、母校で学んだ想い出などをご祝辞としてお述べになられた冒頭に、

「その昔、鶴が舞ひし」といわれる由緒殊の外深き糸貫河畔の学舎で共に励み受け合つて学業に励んだ同窓生の絆ほど根強く尊いものはありません」と、卒業後八十年以上が経過しても、なお忘れ得ぬ青春の日々を、眼を輝かせながら語つてくださいました。さら

に、「こうして本日、お集まりの皆様も男女の別、年次にかかわらず、此の搖るぎなき絆にほだされて、懐かしき同窓会にご出席遊ばされたものと信じます。」と続けられました。

何気なく口にしている「同窓会」という言葉。この僅か三文字ではあるが、この言葉に秘められている中に、「絆」という味わいと「連綿」たる繋がりを感じました。

世相は、「混迷と不安」という言葉に象徴されるような事態に変容してしまいました。

まことに、何時、何が起きても不思議でなくなってしまったような錯覚に陥ります。

家族・家庭が最も安心安全な最小単位であり、地域社会が家庭を包括する安全地帯であるべきはずなのに、それがかなわぬ状況となつた人間模様が報道されるとき、「またか、またか」とため息が連續するばかりであります。

何が原因してか、砂漠化しつつある人間関係か、古来からの日本の伝統的文化及び精神文化さえも駆逐していくような不安を感じります。

幸いにも、このような最中にあっても、郷里を離れた土地で初対面の方との会話に、出身母校が共通したとき、思わず知らず表情はほろび喜々とした笑顔に変わる。やがて懐かしさも万感胸に迫る思いを感じ、校庭の木立や学友の音信や恩師のことに思いを馳せるなど、正に、「母校は青春時代への回帰点」でもあります。

同窓会は、「会員相互の親睦を厚くし、母校の隆盛に寄与する」ことを目的として組織化され活動を推進しています。母校創立百周年に向けての十年間、種々様々な変化があろうとも、母校は若き日のこころの故郷であることは普遍であります。

満百歳の木村喜義様の「同窓生の絆ほど尊く根強いものはありません」との思いを、今一度味わうと同時にその「絆」をより太く、より強固なものに紡いで行くべく、同窓生の皆様のご支援とご参画を衷心より念じ上げます。

本部總会・懇親会

森本誠

## 一、平成二十二年度本部役員紹介

平成二十二年度岐阜県立本巣松陽高等学校同窓会本部総会・懇親会が八月七日（土）グランベール岐山において、今年の当番学年八十八人を含め総勢百二十四人の参加者で、盛大に開催されました。

司会進行は、杉原悟常任理事（昭五十四卒）で物故者への黙祷、遠山信義副会長（昭四十卒）による開会の辞、若原忠義顧問（昭十七卒）と中島洋晃会長（昭三十六卒）と異成生名譽会長（学校長）の挨拶に続いて、天野知子常任理事（昭五十二卒）を議長に、以下の議題について協議

## 一、平成二十一年度事業・決算報告 会計監査報告



ひき続き、当番学年の同窓生は同窓会を会場により開催しました。



達しました。

今回は、昭和六年に、第七期生として岐阜県立本巣中学校を卒業された木村喜義様（満九十九歳）のご出席を賜り、一言ご挨拶をいただきました。そのご挨拶では、「その昔、鶴が舞ひし」といわれる由緒、殊の外深き糸貫河畔の学舎で共に励ました。あつて学業に励んだ当時の状況や、同窓生の絆にほだされて、男女の別年次に拘らず、このよくな同窓会に出席される方々への尊敬の念、母校出身者が名実共に多士済々で、各界で大活躍をされていることへの誇り、等々についてお話をいたしました。

A black and white group photograph of about 25 individuals, primarily men in professional attire (suits and ties), seated in three rows. They are positioned in a large room with a prominent grid-patterned carpet on the floor. The background features a plain wall and recessed lighting in the ceiling.

よる開会の辞 中島会長による挨拶に統いて恩師の紹介が行われました。今回恩師としてお招きしたのは、高見純教、岡部大治、小森清晟、澤村寛、高橋幸仁、以上五名の先生方でした。恩師を代表し高見純教先生から挨拶がありました。上村成夫氏による乾杯の発声を皮切りに、会食が始まりました。

馬渢直樹氏の所属するバンド仲間による演奏の中、思い出話などの懐かしい話や近況報告などで盛り上がり

達しました。  
今回は、昭和六年に、第七期生と

二十九名の参加をいただき、久しぶりに三十人規模の会となりました。とくに、今回は、初めての出席という方も多くあり、今後の発展への希望にも繋がりました。また、会員からのご提案で始めた出席はできないお寄せをして下さいう入が、今回

懇親会を「東天紅大阪天満橋OMOYADO」で行いました。

その後、出席者の自己紹介などで、故郷の思い出話などに花を咲かせ、楽しいひと時を過ごすことができました。卒業年次が異なっていても、学生時代の故郷という共通項により木村大先輩の話されるように、同窓生の絆の強さを実感いたしました。

なお、懇親会に先立つ関西支部総会で、役員の小野正孝氏（昭三十六卒）に代わって、吉田玲子氏（昭三十八卒）が新役員になられることが決定しました。

關西支部

支部長 河村 淑

二十三年度関西支部

續卷一

平成二十三年五月二十八日

(昨年と同会場にて行います。

## 関東支部

支部長 福田英明

平成二十二年度関東支部総会・懇親会は、四月十一日（日）の正午から、東京都内の「アルカディア市ヶ谷（私学会館）」にて開催されました。本部からは巽成生（みちお）校長、松尾寛美事務局長（昭四十五卒）の二名（中島洋晃同窓会会长は急用があり急遽欠席）と本支部会員八十名

を合わせた総勢八十二名で盛大に行われました。最年長参加者は高橋秀道氏（昭十六卒）、最年少参加者は村瀬啓輔氏（平成十七本巣松陽高校卒）でした。

総会は田口勉副会長（昭四十卒）による司会進行のもと、福田英明支部長による開会挨拶で幕を開け、来賓祝辞に続き、報告事項として本年度の事業および会計報告、会計監査報告がなされました。

続いて、「陸上競技人生五十余年」と題された、支部副会長の生方（旧姓平野）文枝さん（昭三十二卒）による特別講演がなされました。生方は、高校時代にやり投げでインターハイに2年3年と出場し、6位5位に入賞。卒業後は大学生として第3回アジア大会に日本代表として出場し、4位に入賞。また、全日本学生選手権では優勝もされています。現在は日本陸上競技連盟の評議員や東京陸上競技協会の栄章委員会委員

などをされており、S級審判員の資格も持つております。講演では、「高校時代の恩師浅野敏雄先生との出会いから陸上競技人生が始まり、心の支えとなっている。人生の岐路に立った時、そこには必ず良き指導者や諸先輩がいて、その導きで今の自分が存在している」と話され、「陸上は人生の友であり、宝物です」と締めくくられました。

**平野、西尾選手の活躍**  
この年（昭和三十二年）の五月二十四日より九日間、第三回アジア競技大会が、五月晴れの東京の下で行われた。この大会には二十力国千七百人の参加をみたのであるが、わが平野文枝・西尾俊三の両名は晴れの日本代表選手として出場して好成績をあげた。

**第四位 槍 投 平野 文枝  
優 勝 ボクシング・ヘビー級 西尾 俊三**

平野選手の槍投げの構えの美しさは定評があつた。弓のように反った身体をはねかえして紺青の空に弾き出される美しいフォームは勝負を別に、満場の拍手が鳴りやまなかつた。

超えて六月三日、アジア選抜競技大会に選ばれた平野選手は、徳島大会において堂々の第2位の栄冠を得て万丈の気を吐いた。

学校ではこのアジア大会に出場し、母校の名前を高からしめた西尾、平野両選手の歓迎会を催し、記念のトロフィーと花束を贈呈してその栄誉を賞し労をねぎらつた。

『本巣高校五十年史』（昭和四十五年十月十日発行）掲載の記事から

懇親会は、在学当時の学帽をかぶつた田口学（昭四十六卒）幹事による司会進行のもと、山田幸雄氏（昭二十二卒）の乾杯の音頭で始まりました。巽校長先生は現在の高校の内外の様子を写真にてプレゼンテーションしていただき、多くの方たちは懐かしそうに見ていました。そして初参加者を紹介、さらに恒例のお楽し

みビンゴゲームなどが行われ、場も大いに盛り上がりました。最後は全員で本巣高校と本巣松陽高校の校歌を合唱し、日比野英一監事による閉会挨拶で幕を閉じました。参加した同窓生は、毎年盛大に開かれるこの会での再会を誓い合い、散会しました。



本巣高校卒と本巣松陽高校卒も一緒に（学生帽をかぶった田口さんも）

### 懐旧の談

昨年、仕事

の関係で、母校を訪れる機会があつた。

門をくぐるのは二十五年ぶりだとと思う。学校の周りの松、今でも松の芽を摘んでいるのであろうか、

木の高さの割に幹が太く、とてもどっしりとしていた。また、これ

でもかと思うほど高くなっている銀杏の木、校舎、体育館、そして

プロック積みの部室と高校時代と変わらない風景がそこにはあつた。

高校には何の思い出もなかつたと

思つていたが、その風景を見るだけで先生の名前（渾名）も思い出され、懐かしさが込み上げてきた。

帰りがけに吹奏楽部の生徒が「ここにちは」と爽やかにあいさつしてくれたのがとても印象的だつた。

卒業して三十年目の今年、同窓会懇親会の当番学年として、八月に行う総会・懇親会になるべく

多くの人に集まつていただきたいと思っています。更には、母校にも立ち寄つて懐かしさを感じていただきたいのです。

（昭和五十六卒 岩崎 清）

### 二十三年度関東支部 総会・懇親会

◎平成二十三年四月十六日（土）

正午～  
(昨年と同会場にて行います。)



## 創立九十周年記念行事行われる

全日本元ソフトボール監督

宇津木妙子さんと

シドニーオリンピック出場

藤井由宮子さんを招いて

十一月十五日、創立九年周年を記

念し、宇津木妙子氏による「努力は裏切らない」と題した講演会が行われました。

現役時代の厳しい練習、仲間との衝突や支え、また監督時代の葛藤を熱く語ってくださいました。生徒たちは、「自分を見つめ直し、苦しむことがあっても耐えられる力を今から養つてほしい」とエールを送つてくださいました。



選手や監督時代のエピソードを語る宇津木さん



宇津木さんから直に指導を受ける

い出や宇津木さんとの出会い、オリンピックでのエピソードなどを語つてくださいました。

講演会に先立ち、ソフトボール部員にバッティングなどきめ細かな技術指導もしていただきました。

感激！！

全日本代表監督であつた方に直接指導していただいたことは、とても嬉しい、貴重な体験でした。

常に私たちに考えるように「なんでこうなるのかわかる?」という言葉を随所で投げかけられ、なぜそうすると良いのか、それをする意味は何か、など詳しく教えていただきました。さらに、これから心がけるとよい

練習方法についても教えていただきました。

これらのこととは今後の練習で必ずいかしていきたいと思います。そして、来年のインターハイに出場できるよう日々、努力していきたいという気持ちを更に強くしました。

ソフトボール部  
松野あすか（2年）

若原 忠義（昭十七卒）	栗本 和幸（昭二十二卒）	堀口 健男（昭三十三卒）
中島 遠山 信義（昭四十六卒）	洋晃（昭三十六卒）	（昭三十卒）
郷 長屋 幸治（昭五十五卒）	和子（昭五十卒）	十口
浅井		十口

（敬称略）

### 会員の皆様からの寄付

総額  
十三万千円

かつて実業団の監督であつた宇津木さんが、高校時代の藤井さんに惚れ込んで本校の銀杏の木の下で「うちのチームに来ないか」とスカウトしたこと、藤井さんがグラウンドで汗を流したことなども、九十年の歴史の一コマです。そうした一コマ、一コマの出来事の積み重ねによって九十年の歴史がつくれられてきたことを生徒たちも実感しました。

## 平成二十二年度 部活動等の成果

### 女子バレー部

・天皇杯全日本バレー県予選

・全日本高校選手権大会

・県高校新人大会

・女子ソフトボール部

・県高校新人大会

・県高校総体

・ラグビー部

・県高校新人大会

・バドミントン部

・県高校1年生大会

・県高校生大会

・男子ソフ

・自然

・文化

・道

・科学

・芸

・同

・好

・会

・系

会員の皆様からの寄付	総額 十三万千円	自然科学部	吹奏楽部	書道部	文化系
若原 忠義（昭十七卒）	三十二口	・県児童生徒科学作品展 ・日本学生科学賞	・県吹奏楽コンクール ・中部日本吹奏楽コンクール	・県高校総合文化祭 ・中部日本吹奏樂コンクール	・県高校新人大会
栗本 和幸（昭二十二卒）	十二口	入選1等	村橋奈緒子 優秀賞	男子複数 高橋・高田組 優勝	男子団体準優勝
堀口 健男（昭三十三卒）	五十口		女子複数 杉山・高垣組 準優勝	五上裕士 優勝	優勝
中島 遠山 信義（昭四十六卒）	十二口				
洋晃（昭三十六卒）	二十口				
（昭三十卒）					
秀眼（昭五十五卒）	十口				
和子（昭五十卒）	三口				
幸治（昭五十卒）	十口				

・県高校総合文化祭俳句部門  
鶯見綾乃 第1位